

ギフチョウ

Luehdorfia japonica Leech
チョウ目・アゲハチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

太平洋側で減少が著しい。東京都、和歌山県では絶滅。県内では全域に広く分布しており、発生個体数も安定しているが、近隣の京都府や滋賀県ではシカの増加に伴う植生の変化による減少が指摘されており、本県でも嶺南地方を中心に今後の動向を注視する必要がある。

種の特徴

小形のアゲハチョウで、黄白色と黒の縞模様。後翅に赤色や青色の斑紋がある。低地～山地の落葉広葉樹林、特に管理のされた里山の環境を生息地として好み、成虫は年1回、低地では3月下旬～4月下旬、山地では4月下旬からみられる。食草はウマノスズクサ科のカンアオイ。

分 布

本州特産種。県内では全域に広く分布しており、嶺北では特に多く発生個体数も安定している。今回の調査では越前町や高浜町内等で新たな生息地が見つかった。

生息を脅かす要因

管理放棄等による里山環境の悪化、各種開発が脅威となる。愛好家の中でも特に人気種であり採集圧も影響大だが、近年ではシカによる植生の変化、食草の被害によって滋賀県や兵庫県、京都府で本種が激減していることも報告されており、特に嶺南地方を中心にシカの影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ヒサマツミドリシジミ

Chrysozephyrus hisamatsusanus hisamatsusanus (Nagami & Ishiga)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に産地は限られており、本種を絶滅危惧種に指定する自治体も多い。県内では南越前町、敦賀市、小浜市で記録があるが、今回は南越前町で確認できたのみであり、その生息地でも林道整備による産卵木の伐採等が報告されている。

種の特徴

小型。オスは翅表が深い緑色に輝き、外縁黒帯は前後翅とも太い。メスでは褐色の地に青紫色と赤色の斑紋がある。裏は濃褐色、後翅中央の白帯はV字状。低地～山地の照葉樹林、落葉広葉樹林に生息し、幼虫の食樹としてウラジロガシのほかアラカシ、コナラ、ミズナラ、ブナが知られる。

分 布

本州～九州に分布。県内では南越前町、敦賀市、小浜市で記録がある。

生息を脅かす要因

南越前町の生息地では、ウラジロガシ以外からもたくさんの卵を確認できた時期があったが、林道整備等でそれらが伐採されて数が減っている。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○		○									

オオムラサキ

Sasakia charonda charonda (Hewitson)
チョウ目・タテハチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では多産地といわれるほどの生息地はないが、割と広く分布が確認されている。全国的に本種が好むような条件の良い雑木林は開発や管理放棄により失われており、本県でも今後の動向を注視する必要がある。

分 布

北海道～九州に分布。県内でも薄く広く分布している。今回の調査では、福井市末町、大野市下大納、嵐谷、南六呂師、勝原、鳩ヶ湯、あわら市で生息が確認された。

生息を脅かす要因

クヌギ・コナラ等の条件の良い雑木林が開発により消失したり、管理放棄により変質してしまったことが本種の減少の原因である。成虫の生息条件を整えない限り個体数が増えることはない。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○								○		○	○	○